

令和 元年 5 月 30 日現在

機関番号：15301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0051

研究課題名（和文）修道院と教区共同体の相互影響関係と社会形成に関する比較研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）A comparative study on mutual effect relationship between monasteries and parish communities(Fostering Joint International Research)

研究代表者

大貫 俊夫 (Ohnuki, Toshio)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：30708095

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,500,000円

渡航期間： 6ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究の課題は、若手研究(B)「修道院と教区共同体の相互影響関係と社会形成に関する比較研究」を発展させ、シトー会修道院が司牧を通して世俗社会の形成・持続的発展に果たした手段・役割をより総合的に明らかにするものである。フランスやイングランドと比較しながら、ドイツ地域を中心にシトー会修道院と教区教会の関係を示す刊行史料、未刊行史料の収集・分析を進めた結果、シトー会士は農村・都市住民の司牧環境に配慮し、積極的に関与した実態がますます明らかになった。こうした成果は、ドイツ語で著した単著（Toshio Ohnuki, Orval und Himmerod, 2019）などに盛り込まれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、キリスト教修道制の比較史研究に関して日欧を中心とした国際共同研究網を構築し、これを持続的な研究体制に発展させることにある。6ヶ月強におよぶ比較修道会史研究所における滞在の成果は、2019年3月1～2日に岡山大学で開催した国際シンポジウム「司牧と修道制:800～1650年」(Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650)として結実した。そこでの12本の報告は、英語による共編著として2020年3月に“Vita regularis”シリーズから出版予定である。今後はここで構築した研究基盤をさらに発展させていくことが見込まれる。

研究成果の概要（英文）：Developing my early research projekt "A comparative study on mutual effect relationship between monasteries and parish communities", the aim of this research is to clarify more comprehensively the roles that Cistercian monasteries played through pastoral care in the formation and sustainable development of secular society. As a result of the collection and analysis of published and unpublished historical materials that show the relationship between the Cistercians and parish churches, focusing on the German regions, the monks were interested in pastoral environment of rural and urban people.

研究分野：西洋中世史

キーワード：ヨーロッパ中世史 キリスト教修道制 シトー会 司牧 西洋史 教会史 社会史

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は博士論文以来、12世紀から14世紀半ばまでにおけるシトー会修道院と世俗社会の関係を分析してきた。この研究を深めるため、若手研究(B)「修道院と教区共同体の相互影響関係と社会形成に関する比較研究」(H26-28)では、修道院と世俗社会の結節点として各地の教区教会に着目した。従来、教区教会は修道院にとって収益を引き出す対象としてしかみなされてこなかった。しかし研究代表者は、ドイツ地域を中心に修道院文書の分析に取り組み、修道院と教区共同体の相互依存関係と地域社会存続のための協同体制の実態を明らかにし、新たに、修道院が教区＝農村共同体の復興・再発展に寄与していたことや、その社会秩序やアイデンティティ形成に影響を与えていたことを示した。

しかし、修道院は中世においてヨーロッパ中に創建されたことから、そもそも地域間、あるいは修道会間の比較研究に適しており、また国際的な共同研究を行わないとその全体像がつかめなことが認識された。そのため、個人研究を推進しつつ国際的なネットワークの構築が急務であると考え、本国際共同研究を実施することになった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)修道院の内部で醸成される諸価値と(2)外部の広域的な政治・社会環境を厳密に把握した上で、シトー会修道院と世俗社会との相互影響関係の実態をより一層明らかにし、(3)その史料研究の成果をデータベース化することである。具体的には以下の通りである。

(1) M・ウェーバーは、人間を(社会的に)規律化するしくみのメタファーとして修道院を論じたが、確かに修道院は、そこで醸成される様々な価値観を内外に発信し、影響を与えていた。これまで、具体的な紛争や儀式を通じてシトー会修道院が教区民の社会秩序に影響を与えた事例を見出してきたが、本研究ではそうした事例をさらに分析するとともに、中世の修道制がどのような価値・シンボルを農村社会や都市社会に発信していたのかを明らかにする。

(2) 教区教会を核として形成された農村共同体は、12～14世紀の間、しばしば諸侯や領主による私戦(フェーデ)による被害を受けるなど、広域の政治・社会状況に巻き込まれていた。そこで、修道院と教区教会がおかれた政治・社会環境を詳細に把握し、これまでミクロな次元で分析してきた修道院＝教区教会間の相互関係をよりマクロな文脈におき直す。

(3) 現在ヨーロッパ中の文書館で修道院文書のデータベース化、ウェブ上での公開が進んでいる(Monasterium.Netなど)。しかし、修道会ごとに網羅的なデータベースはいまだなく、使い勝手も悪い。そこで、アルプス以北の神聖ローマ帝国を対象に、シトー会修道院と教区教会の関係を示す刊行史料や未刊行史料の収集・分析を体系的に行う。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法で進めていった。

(1)平成29年3月～同年9月：渡航期間(ドイツ、ドレスデン工科大学の比較修道会史研究所)約2年にわたる共同研究遂行のため、共同研究者と計画を具体化

上記研究目的(1)(2)について、研究所の図書館を利用し、研究員と議論をしながら研究を推進

上記研究目的(3)について、ドイツ(バイエルン州)の文書館で史料を収集・分析
国際中世学会(イギリス、リーズ大学)で国際共同研究者らとセッションを組み研究発表

(2)平成29年10月～平成30年9月：研究推進・発信期間(岡山大学)

研究目的(1)～(3)を推進

(3)平成30年10月～平成31年3月：研究推進・発信期間(岡山大学)

引き続き研究目的(1)～(3)を推進

平成31年3月1～2日に岡山大学で国際シンポジウム「司牧と修道制:800～1650年」(International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650)を開催し、ドイツとイギリスから4名を招聘、キリスト教修道制と仏教寺院を専門とする研究者12名が本研究に深く関わる研究報告と討論を行った。

平成31年3月4日に慶應義塾大学で国際シンポジウム「日欧における中世修道制史研究の過去と現在」(The International Symposium "The Past and Present of the Research on Medieval Monasticism in Europe and Japan")を開催。

4. 研究成果

(1)研究の主な成果

本研究の成果として、まず研究代表者が自らのフィールドについてケース・スタディを飛躍的に進めることができた点を挙げる。具体的には、ドイツ王国西部～中南部～東部にわたる広範な地域について、シトー会修道院が教区教会や礼拝堂のパトロナートゥスないしインコルポラティオを通して、農村・都市の住民の司牧環境の向上に貢献していたことを明らかにした。

さらに、様々な修道会を比較する観点から、岡山大学で開催したシンポジウムは本研究の最

大の成果である。そこでは、時代によって、そして修道会によって司牧活動の受け止め方が異なっており、修道制と司牧が常に何らかの緊張関係を生み出していたことを具体的に明らかにした。この緊張関係の所在をマッピングし、その特性を明らかにすることで、ヨーロッパ中世における信仰と社会の関係を見通すことが可能になった。当初の予想以上の成果として、そこに日本中世の仏教寺院による民衆教化の専門家を招聘し、異なる地域・信仰の間での比較を行えたことを強調したい。修道会という研究対象を通して、より普遍的でグローバルな歴史理解に到達できる可能性を示した。

なお、研究目的のうち3点目のデータベース化については、シトー会修道院の数が膨大であることからいまだ不十分な状況である。これは、今後の研究プロジェクトの中で完成させることにしたい。

(2)得られた成果の国内外における位置付けとインパクト

本研究を通じて、研究代表者は、近年ヨーロッパを中心に形成されつつある中世修道制・修道院研究の研究者コミュニティに参画することができた。本共同研究の主眼は、研究代表者と共同研究者の3人を核として、国際シンポジウムや学会セッションを日本とヨーロッパの両方で開催する点にあり、これは十分に達成されたと言える。また、これまで日本の修道制・修道院研究は、海外の研究を摂取しつつも国際的なネットワークから離れた所で行われてきたが、このネットワーク構築によって、日本で生み出されてきた良質な研究を、世界的な学術コミュニティに還元することができた。

本研究で扱うキリスト教修道制は、日本も含む世界各地に根付いた普遍的な文化である。しかし、それゆえにこれまで研究者によって非常に多様な観点から論じられており、分野として細分化が進み、全体像が見え辛い状況にある。本国際共同研究では、司牧という観点から修道院と世俗社会の相互影響関係の実態はいかなるものだったのかという問題を設定した。とりわけ2019年3月に岡山大学で開催した国際シンポジウム「司牧と修道制:800~1650年」(International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650")では、計画時に設定した問題を、研究協力者らとともに政治史、社会史、教会法、修道院神学などの方法論を総合して検討することができた。これにより、修道制・修道院が社会において果たした役割について一つの全体像を提示し、修道制がヨーロッパの社会形成や諸文化にとって有する史的意義を見いだすことができた。

(3)今後の展望

本研究を基盤にしてさらに新たな国際共同研究に発展させることができれば、当該分野における日本の研究者のプレゼンスが一段と鮮明なものになるだろう。その点において、歴史的にグローバルな広がりを持つキリスト教修道制は、学際的なアプローチによる比較史研究に非常に適している。今後は、引き続きドレスデン工科大学の比較修道会史研究所と密接に連携して、ヨーロッパ、南北アメリカ、アジアにおける修道会と司牧の関係について研究プロジェクトを展開していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 1 件)

大貫俊夫「ホスピタリティの起源とキリスト教修道制」『神奈川大学評論』(査読無)、第86巻、2017年、pp. 2-7

[学会発表](計 10 件)

Toshio Ohnuki, "The Cistercians, Church Possession, and Pastoral Care in the High Middle Ages: A Case Study on Monasteries in Franconia and Saxony," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650", Okayama University, 2019.
Gert Melville, "Monks and Pastoral Care in the Discussion of Medieval Canon Law," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650", Okayama University, 2019.

Mirko Breitenstein, "Pastoral Care and Monastic Literature. Concepts of Spiritual Guidance in the High Middle Ages," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650", Okayama University, 2019.

Emilia Jamroziak, "The cult of saints and the pastoral care in late medieval Cistercian communities in southern Germany," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650", Okayama University, 2019.

Yuichi Akae, "Catechetical Teaching and Preaching by a Mendicant Friar: The Treatises on Pastoralia of John Waldeby OESA," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650", Okayama University, 2019.

Joeg Sonntag, "Playing with God. Games as Tools of Pastoral Preaching in the Late Middle Ages," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650",

Okayama University, 2019.

Kazuhisa Takeda, "Pastoral Care on the Battlefield: Jesuit Military Involvement in Early Modern Europe and South America," International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650", Okayama University, 2019.

Toshio Ohnuki, "A Study of the Mutual Effect Relationship between the Cistercian Monastery of Heilsbronn and Parish Communities," International Medieval Congress 2017, University of Leeds, 2017.

大貫俊夫「シトー会修道院と小教区共同体の相互コミュニケーションー中世盛期のラインラントとフランケンの事例からー」, 西洋中世学会第9回大会、首都大学東京、2017年

大貫俊夫「ホスピタリティの起源とキリスト教修道制」, 神奈川大学人文学研究所公開シンポジウム「ホスピタリティと人文学の役割」, 神奈川大学、2016年

〔図書〕(計 3 件)

Toshio Ohnuki, Orval und Himmerod. Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350), Kliomedia, Trier, 2019, 286pp.

アルフレート・ハーファーカンプ著、大貫俊夫他編訳『中世共同体論ーヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人』, 柏書房、2018年、408pp.

大貫俊夫『名著で読む世界史 120』, 山川出版社、2016年、368pp. (pp. 249-251)

〔その他〕

ホームページ等

大貫俊夫 (researchmap) : <https://researchmap.jp/ohnuki/>

ドレスデン工科大学比較修道会史研究所 : <https://tu-dresden.de/dcpc/fovog>

国際シンポジウム 1: https://note.mu/notatione_digna/n/n803743c8a8fc

国際シンポジウム 2: https://note.mu/notatione_digna/n/n93c2ad8deec3

6. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名：大貫俊夫

ローマ字氏名：Toshio Ohnuki

所属研究機関名：岡山大学

部局名：大学院社会文化科学研究科

職名：准教授

(2) 研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：イェルク・ゾンターク

ローマ字氏名：Joerg Sonntag

所属研究機関名：ドレスデン工科大学

部局名：比較修道会史研究所

職名：学術研究員

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名：ミルコ・ブライテンシュタイン

ローマ字氏名：Mirko Breitenstein

研究協力者氏名：ゲルト・メルヴィル

ローマ字氏名：Gert Melville

研究協力者氏名：エミリア・ヤムロズィアク

ローマ字氏名：Emilia Jamroziak

研究協力者氏名：赤江雄一

ローマ字氏名：Yuichi Akae

研究協力者氏名：武田和久
ローマ字氏名：Kazuhiisa Takeda

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。